



看護問題対策委員会ニュース

全日本赤十字労働組合連合会 NO.13-09 2014.5.26

全日赤看護学習交流集会開催しました

5月24～25日、東京・医療労働会館2階で、看護学習交流集会を開催し、19単組52名が参加しました。24日は、日本医労連の三浦書記次長（看護対策委員会事務局長）より「医療・看護をとりまく情勢」、続いて森田副委員長の「医労連ILO・欧州視察」、そして五十嵐中執の「全日赤の夜勤闘争の歴史と課題」と、国内・世界・全日赤の3本の報告をしてから討論をしました。

職場改善には増員。労働時間管理をしっかりと

討論の中では「流産だけでなく、不妊治療を受ける人が増えている」「妊娠したら本人が申し出たの夜勤免除でなく夜勤禁止にすべき」「育短者の夜勤が当たり前になってきている」「育短者は職場でプラスαでカウントすべき」「育短者が帰ってしまうと夜勤者がくるまでの時間の人手が足りない」。夜勤問題について「16時間夜勤が長すぎるからと夜勤時間を13時間に短くすると長日勤が入る。長日勤は本当につらい」「変則3交替制では各勤務時間の長さが異なるので、通常日勤労働者よりも月の労働時間が長くなっていた。長くなった時間は時間外手当の対象になっていない。労働時間の管理はしっかりやらないといけない」。働く環境の問題では「新人の時間外労働は『自分の学習のためだから』と看護部長が答えた」「職場では新人が時間外手当の請求ができない雰囲気がある」「職場改善には増員が不可欠」など意見がだされました。



ノーリフトは看護の質を向上 変えるのは私たち看護師

25日は、日本ノーリフト協会の保田淳子代表より「持ち上げない看護～ノーリフトの基本」の講演をおこなっていただきました。「プロとして自分の健康に責任をもつ」ことが大切で、オーストラリアの看護労働にも触れながら「押す・引く・持ち上げる・ねじる・運ぶことを人力のみでおこなうことを絶対に禁止するのがノーリフティングポリシー（ノーリフト）」です。私たち看護師が力と気合いを入れて患者を運ぶやり方は決して患者さんの安楽につながっていないことに気づかされ、リフトと正しいポジショニングをすることで患者さんの拘縮が取れることは『目から鱗』で、ノーリフトは看護の質の向上につながります。現在腰痛を持っている看護師は3割程度ですが、過去腰痛になったことがある（経験腰痛）看護師は7～8割おり、看護師の腰痛問題は喫緊の課題となっています。職場は変わらないとあきらめるのではなく、「変えられない」を変えていくのが私たちの役割です。

また、実際にスライディングシート（スマイルシート）の活用方法やリフトを体験し、参加者は「スマイルシートは職場にあるが活用されていないから（使い方を）広めます」「職場に帰って、労働安全衛生委員会で取り上げるようにしよう」「重力や道具をうまく使うとこんなに楽なんだね」など感想がでました。